

印象の強い語彙・フレーズの音韻的特徴 —「墾田永年私財法」の音韻論—

Phonological Features of Impressive Vocabulary and Phrases: Phonology of "KonDenEeNenShiZaiHoo"

酒井 純

要旨

「墾田永年私財法」や、「支点力点作用点」など、その語呂の良さから記憶に残りやすいことばがあるが、これらはどのような音韻的特徴により、話者に強い印象を与えるのか。本研究ではこのような語彙・フレーズがどのような音韻的特徴を持つのかを、音節やモーラ、音数律などの面から明らかにする。その中でも、促音、撥音、長音などを含む「2モーラ音節」により、印象が強くなっているのではないかと考え調査を行った。

キーワード：音節 モーラ 2モーラ音節 音数律 七五調 墾田永年私財法

1. はじめに

音声学や音韻論の授業の中で、日本語の音韻の基礎となる音節やモーラを扱う場合、日本語はモーラ言語で、英語に代表される音節との違いのみに焦点を当てることにとどまってしまうがちで、日本語にとっての音節の意義まではなかなかふれられにくい。従来、日本語はモーラ言語であり音節については積極的に扱われないことも多かった¹。しかしながら最近の研究では、日本語においてもモーラに加えて音節も重要な役割を果たしていることがわかっており（窪園2002）、これについて音声学・音韻論の授業において良い例を挙げながら説明できないかと考えてきていた。

そのような中で、「墾田永年私財法」をはじめと歴史用語や科学用語などに、語呂が良く印象の強い語彙・フレーズがあり、これらを音声学・音韻論の教材として活用できるのではないかと考えた。そしてこの印象の強さには、モーラと音節の関係、特に2モーラ音節が深く関わっているのではないかと考えた。このため、本研究では、これら印象の強い語彙・フレーズがどのような音韻的特徴を有するのかを、音節とモーラ、音数律などの面から明らかにし、これらの特徴を持つ語彙・フレーズを収集し、分析することとした。

2. 日本語の音の数え方

日本語を母語とする話者にとって、短歌の五・七・五・七・七、俳句や川柳の五・七・五のリズム感は小さなころから慣れ親しんだものである。このため、有名な短歌や俳句に限らず、知らない歌や句であってもほとんどの人が間違えることなく、五・七・五・七・七や五・七・五と数えることができる。ところが、日本語を母語としない日本語学習者にとっては、日本語

神戸親和女子大学文学部総合文化学科 准教授

の母語話者と同様にこれらの音を数えるのは難しい。

- (1) 古池や 蛙飛び込む 水の音 松尾芭蕉
- (2) 柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺 正岡子規
- (3) 雪溶けて 村一ぱいの 子どもかな 小林一茶

日本語母語話者であれば、上の例1～3の俳句について、五・七・五のリズム感で音を数えることは簡単であるが、日本語学習者にとって、この3つの俳句が同じ五・七・五で音を数えることは難しい。これは、日本語がモーラという単位を基礎として音を数える言語であり、英語や中国語、韓国語など日本語以外の言語の多くは音節を基礎として音を数えるためである。実際に上記3つの俳句をモーラ、音節で数えた場合の数は、次の表1のようにまとめることができる。

表1 モーラと音節の違いによる音数の違い

	モーラで数えると	音節で数えると
(1) 古池や 蛙飛び込む 水の音	五・七・五	五・七・五
(2) 柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺	五・七・五	五・七・三
(3) 雪溶けて 村一ぱいの 子どもかな	五・七・五	五・五・五

この表からわかるように、日本語の基礎となっているモーラで数えた場合には3つの俳句とも、五・七・五の音の数え方となる。ところが音節を基礎としてこれらの俳句を数えた場合には、(2)、(3)では五・七・三、五・五・五のように数が違っている。これは、(2)では下線部「法隆寺」の部分が日本語話者であれば「[ほ|う|り|ゅ|う|じ]」の5つに分けて数えるのに対して、他の言語話者には「ほうりゅうじ」と3つに分けるのが自然なためである。また(3)では、下線部「一ぱい」の部分が日本語話者の「いっ|ぱい」の4つに対して、他の言語話者の「いっ|ぱい」と2つに数えられるためである。このため、音節を基礎とした言語を母語に持つ日本語学習者には、これらの数の違いが日本語を学習する場合に障害となることがよくあると言われている。

一方で、日本語母語話者にとっては、モーラこそが音の数え方と考えていることが多く、この音節とモーラの違いについて意識しにくい面がある。このため、まず音節とモーラについて述べるとともに、日本語の音の数え方である音数律についてまとめる。

2.1. 音節とモーラ

窪園2002では、音節の定義として「母音を中心とする音のまとまり」、モーラについては「音節を部分的に分解した単位」としている。また小泉2003では、音節とは「発動体の押さえや声道における閉窄により区切られた気流の出入に生じる脈拍活動」、モーラとは「音節よりもさらに小さな音声群の単位」とされている。これらを含め本論では、音節はモーラよりも1段大きく、1つ以上のモーラから構成されている韻律単位、またモーラとはその言語の話者が1拍として数えることのできる音の単位、と定義する。

また、プラグ学派の言語学者であるN. S. トゥルベツコイは、これらの音節とモーラの違いに着目して、それぞれを基礎とする言語を音節言語とモーラ言語に分類している。英語や中

国語を含め、世界の多くの言語は音節言語であり、モーラ言語の代表例は日本語である。実際には、世界的に見てもモーラ言語として分類される言語は少なく、日本語以外としてはアラビア語やハワイ語があげられる程度である。

このように日本語はモーラを基礎とした言語であるが、英語などの音節言語は「音節がアクセント規則の基本的な単位」となることが知られており（窪園1995）、またそれらの言語話者にとっては音節が音を数える基本的な単位になる。このため、モーラ言語と音節言語では、言語の音を数えるときに、同じ語彙・フレーズを数えても数が異なってくることもある。

2.1.1. 音節構造

では実際の音節についてであるが、その構造は言語によっていくつかの点で異なっている。次にあげるのは、子音をC、母音（二重母音）をVとして表したときの、英語の音節構造の例である。他の言語と同様に、音節は音節主音となる母音を中心として、その前後に子音が接続する形で構成されている。

表2 英語の音節構造

音節構造	例	音節構造	例
V	a
CV	the	CCVC	strike
VC	at
CVC	cat	CVCCCC	sixths

英語の場合には、前後に子音の接続しない単独の母音で構成される音節から、前後に複数の子音が接続する様々なタイプの音節がある。音節頭には最大3つの子音連続が接続し、音節末には最大4子音連続が出現することがある。このためそれぞれの組み合わせの数も多く、音節構造の種類は20種に及ぶとされている（窪園1995）。

一方、日本語の音節構造をまとめたのが次の表3である。ここでもVは母音を、Cは子音を表しており、またこのVにはVVと表記することもできる「母音+長音」も含むものとする。

表3 日本語の音節構造

音節構造	例
V	イ（胃）、エ（絵）、オー（王）
CV	カ（蚊）、テ（手）、モ（藻）、ドー（胴）
VC	ウン（運）、エン（円）、ウイーン
CVC	サン（三）、テン（点）、ターン

日本語の場合には、基本的にはこの表にあげた4つの音節構造を持つのみであるⁱⁱ。また、音節に後続できる子音は撥音ンと促音ッに限られており、このためVおよびCVに対してVCおよびCVCタイプの音節は出現頻度が限られることがわかる。

2.1.2. 開音節と閉音節

英語や日本語を含め様々な音節の構造がある中で、音節末尾が母音で終わるのか、子音で終わるのかという構造を、それぞれ開音節と閉音節という。開音節は、音節が母音で終わるもので、V、CV、CCVなどの構造がこれに当たる。一方音節末が子音で終わるもの、VC、VCC、CVC、CCCVCCなどは閉音節と呼ばれる。

英語の場合、開音節の割合は、40%程度と言われ（Dauer 1983）、多くの子音連続を許容することもあり、閉音節の割合が多いために閉音節言語と呼ばれる。一方日本語は、上記でも見たように子音で終わる音節が特殊なものに限られるため、閉音節は10%を下回ると言われている（窪園1992）。これは「古代日本語はすべての音節が開音節（CV）であった」（窪園1998）ためであるとされる。日本語はもともと開音節のみであった（音節末に子音がつくことがなかった）が、その後に撥音便、促音便という音韻変化によって撥音や促音が追加され、閉音節を持つこととなった。

これらのことから、撥音、促音は音節頭にくることはなく、必ず音節尾に出現して閉音節をなす。上記の構造で表せば、CVCの下線部Cの部分にのみ出現するということである。

2.1.3. 音節とモーラの数

母音を伸ばす音である長音「ー」とあわせて、撥音・促音・長音の3つはモーラ音素、または特殊拍と呼ばれる。通常、日本語の音節数とモーラ数は一致するのだが、これらのモーラ音素が入る場合には、音節数とモーラ数がずれることとなる。これら長音・撥音・促音を含む音節は、通常よりモーラ数が多くなるために、重音節、超重音節、または2モーラ音節や3モーラ音節とよばれる（藤川2013）。これをまとめたのが次の表4である。

表4 2モーラ音節、3モーラ音節

呼称1	呼称2	音節構造	例
1モーラ音節	軽音節	V、CV	<u>い</u> ち（位置）、 <u>た</u> ち（太刀）
2モーラ音節	重音節	VC、CVC、VV、CVV	<u>いん</u> （韻）、 <u>たん</u> （痰）、 <u>タ</u> ッチ、 <u>タ</u> ール <u>あい</u> （愛）、 <u>きたい</u> （期待）
3モーラ音節	超重音節	VVC、CVVC	キャ <u>イ</u> ーン、 <u>タ</u> ーン

モーラ音素が関わらない音節は、1モーラ音節または軽音節とよばれ、ほとんどの音節がこれに当たる。次に、撥音・促音が後ろに接続する閉音節VC、CVC、および長音が接続する開音節と、アイやオイといった二重母音を含むVV、CVV（2番目のVは1番目のVを伸ばすことを表す）は、2モーラ音節または重音節と呼称される。また、CVVタイプの2モーラ音節に撥音が接続したVVCとCVVCは、3モーラ音節や超重音節とよばれるが、このタイプは長音部分を落とすなどして2モーラ音節へと変化する傾向が強いことがわかっている（窪園1998）。

今回の研究では、この2モーラ音節（以下こちらの表記で記述する）の存在が、強い印象を持つ語彙にとって、ある一定の役割を果たしているのではないかと考えている。

2.2. 音数律

日本語の短歌や俳句は、通常の文章である散文に対して、音数律という一定のリズムを持った文章として韻文とされることがある。しかし本来韻文の成立には、一定のリズムを持つことと、押韻（文頭文末で韻を踏むこと）を持つことが条件であり、この意味では韻文と言うよりも一定のリズムを持つ「律文」という表現が的確であると言われている（『日本語百科大事典』）。

ここではまず、短歌や俳句といった日本語の律文の基本的な音数律について、『日本語百科大事典』に基づいてまとめる。

2.2.1. 日本語の音数律

日本語の律文での音数律は、「2音節ぶんの音量を1拍として、2拍子ないし4拍子の拍子」を基本としているとされる。ここでいう拍子は、2モーラで1拍としてまとめ、2拍=4モーラで構成される。次の図1は、これを表した概念図である。

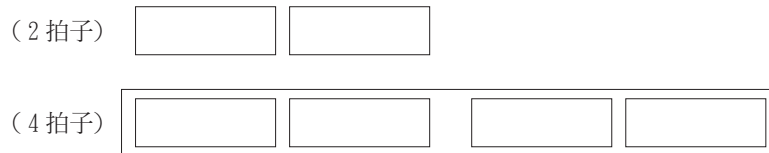


図1 2拍子と4拍子の概念図（日本語学大事典より引用）

ただ、これでは少しわかりにくいので、音楽記号に置き換えたものが次の図2である。この図では、8分音符1つを1モーラとして数え、2モーラで1拍を表すため、8分音符2つの連符で表している。

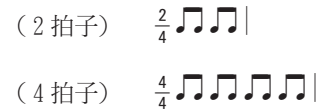


図2 2拍子と4拍子の概念図

また、これを含む律文の音数律の原則として、次の4つの項目がまとめられている。

- ① 原則として、2音を1拍として分節する（長音・促音・撥音も1音に数える）。
- ② 6音・7音の句において、3音めのほうが4音めより深く切れる場合は、冒頭に休止を置く。
- ③ 6拍以内におさまるものは2拍子、それ以上に及ぶものは4拍子とする。
- ④ 拍節の末に生じる余白は、（最大限3音分まで）休止とする。

まず①の原則についてであるが、「2音を1拍として分節する」とは2モーラをまとめて1拍という単位を設定するということである。これは、括弧書きで「長音・促音・撥音も1音に数える」となっていることからわかる。この3つの音は前述の通りモーラ音素とも呼ばれ、それぞれ1モーラ分の長さが認められるためである。このペアの概念を表すため、図2では8分音符を用いて♪のように、ペアとして表記している。

次に②についてであるが、6モーラまたは7モーラの場合に、その意味の切れ目の関係で、休止位置がずれる可能性があることを示している。律文では、基本的な4拍子のリズムを壊さないため適宜休止が入れられる。そして文を構成する語の音数の違いによって、この休止の位

置が移動することがある、ということである。これにあたる俳句の例を、次の表5にあげる。

表5 7拍で休止位置がずれる例

(2) 柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺	かきくえば かねがなるなり ほうりゅうじ
	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪ ♪
(4) 夏草や 兵どもが 夢の跡 (芭蕉)	なつくさや つわものどもが ゆめのあと
	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪ ♪ ♪♪♪♪♪♪♪ ♪ ♪

表5にあげた俳句は、いずれも二句^㉓の部分は7音であるが、(2)では「鐘が」の3モーラの部分と、「鳴るなり」の4モーラの部分に分けることができる。このため、音数の構成としては3+4ということになり、この場合には頭に休止が入って、♪♪♪♪♪♪♪というリズムになる。一方、(4)の二句の部分「兵どもが」の部分は、「兵」の4モーラと「どもが」の3モーラから構成され、4+3という音数の構成になり、この場合には♪♪♪♪♪♪♪というリズムで、末尾に休止が入ることとなる。このため、この二つの俳句のリズムが二句の部分で異なってくる。これが②の原則で言う、休止位置の移動である。

次の③については、6拍つまり12モーラまでの文は2拍子として扱い、13モーラ以上の文は4拍子とするということである。特に引用元にはっきりとした表記はないが、七五調との関係を考えて、これは休止を含めて12モーラ以上のことと考えられる。これにより、12モーラ以下の文では8モーラ目での切れ目の意識が弱くなる。

最後の④については、俳句の初句、結句の五の部分の休止についてである。通常上記の②で述べた休止と同じように、初句の後半に休止があることはあまり意識されない。しかし実際にリズムとして捉えると、初句、結句の末尾の部分には♪♪♪♪♪♪♪のように休止が入っている。原則の④では、この♪♪の部分について述べているわけである。

このように、日本語の律文における原則は上記の4つにまとめられるわけであるが、実際にはこれらの原則に則った上でいくつかの代表的な音数律ができています。

2.2.2. 七五調

七五調は日本の代表的な音数律ともいわれ、短歌、俳句、川柳などでも中心的な役割を果たすとともに、現代までの歌謡曲にも多く用いられるなど、日本人にとっては非常になじみの深い、また印象に残りやすい音数律である。実際、次の(5)~(8)の例のように受験勉強など用語を暗記する場面で、七五調は単体で、また「もしもしカメよ」など七五調の曲として用いられる^㉔。この点で、暗記に用いることができるということは、七五調の語彙やフレーズは印象が強いといえるのではないだろうか。

- (5) 水兵リーベ、僕の船 (元素周期表)
- (6) 変ねー、歩くランドセル (元素周期表第18族)
- (7) 水金地火木土天海 (太陽系の惑星)
- (8) あり、おり、はべり、いまそかり (ラ行変格活用動詞)

七五調は、基本的に7モーラ分の音と1モーラ休止、5モーラ分の音と3モーラ休止の部分から構成され、7モーラの部分は律文の音数律の原則②でも説明したように、その休止位置は

前後に移動することがある。これをまとめたのが次の表6である。

表6 七五調の2種類のリズムとその例

	リズム	例
パターン1	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(9) 一富士、二鷹、三茄子 (10) 重要無形文化財
パターン2	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(11) 地震、雷、火事、親父 (12) サイン、コサイン、タンジェント

この休止の位置が移動することはあまり意識されないが、実際にこれらの語彙を読み上げてみると、しっかりとその移動は確認可能である。

また、日本語の律文では、七五調の休止の部分埋める形でモーラを追加する、いわゆる「字余り」とよばれる現象がある。このようなリズムを崩さない、つまり「発音するのに要する時間の長さ」「定型句と変わらぬ」範囲の字余りは特に「許容せられる字余り」(国語学大事典)とされている。この字余りと逆にモーラを欠落させるものを「字足らず」とよび、これらを合わせて「破調」とよばれている。

この字余りの中でもよく現れるのが7モーラの部分が8モーラになるもの、および5モーラの部分が6モーラになるものである。これを掛け合わせると七五調は表6の標準的な2つのパターンに加えて、次の表7の4つのパターンが考えられる。

表7 七六調、八五調、八六調のリズムとその例

	リズム	例
七六調1	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(13) ハッブル宇宙望遠鏡 (14) 阪神・淡路大震災
七六調2	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(15) 鳴くようぐいす平安京 (16) 母をたずねて三千里
八五調	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(17) 墾田永年私財法 (18) ABCD 包囲網
八六調	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(19) 王政復古の号令 (20) 環太平洋造山帯

一方、今回の研究では七五調の音数律を中心に扱っているが、これ以外にも、表8のような七七調や五七調といった音数律もあり、字余りの破調を許容したり、休止位置が移動したりと基本的なルールは律文の音数律の原則に従っている。

表8 七七調、五七調の例

	リズム	例
七七調	$\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(21) 足尾銅山鉍毒事件
五七調	$\frac{4}{4}$ † ♪♪♪♪♪♪ ♪♪♪♪♪♪ †	(22) ビルトインスタビライザー

2.3. 音数律と2モーラ音節

前述の通り、日本語の律文の音数律である2拍リズムや4拍リズムでは2音、つまり2モーラを1拍と捉えられている。このため、4拍であればこれを♪♪♪♪の形で示してきた。では、この♪の部分に2モーラ音節が収まれば、というのが本研究でのポイントとなる。これを用いて⑳環太平洋造山帯を表すと次のようになる。

表9 2モーラ音節を一拍で表す

1モーラを♪で表す場合	$\frac{4}{4}$	カン ♪	タイ ♪	ヘー ♪	ヨー ♪	ゾー ♪	ダン ♪	サイ ♪
2モーラ音節を♪で表す場合	$\frac{4}{4}$	カン ♪	タイ ♪	ヘー ♪	ヨー ♪	ゾー ♪	ダン ♪	サイ ♪

この考え方でいけば、撥音や長音を含む2モーラ音節は♪四分音符1つで表すことができる。これはあくまでここでの表記の問題であるが、2モーラ音節が日本語の律文と相性が良ければ、七五調などへの出現頻度が高まると同時に、リズム感の良さから印象が強くなるとも考えられる。

3. 印象の強い語彙

本論文での印象の強い語彙とは、その語彙の内容的分野、内包する意味、文字の印象などを除き、いわゆる「語呂が良い」など音声の面でのみ印象が強く、記憶に残りやすいものと定義する。実際の語彙としては、「(17)墾田永年私財法」や「(18)ABCD 包囲網」などの社会科用語や、「(8)サイン、コサイン、タンジェント」や「(20)環太平洋造山帯」など数学・理科学用語がその中心となる。また印象の強さを意識して作られた広告のキャッチコピーにも、印象の強いものが多い。例えば次のようなものがあげられる。

- (23) 当たり前前のクラッカー
- (24) スカッとさわやか、コカコーラ
- (25) 100人乗っても、大丈夫！

このため、特にその内容や時期、分野にかかわらず、あくまでも語呂の良さや印象の強さを指標としてインターネット上から語彙・フレーズを収集することとした。

3.1. 収集したデータ

今回まず集めた1つめのデータとしては、墾田永年私財法をはじめとした語呂が良くて印象の強い語彙やフレーズをまとめたインターネットのサイトの中で、語彙の重複が少ない6サイトを選び、ここから抽出した（以下「まとめデータ」と表記）。これは特に音数律などに縛られていないため、単純に印象が強いとされたものが羅列されている。これをまとめたものが次の表10である（データ引用元、参考サイト①②③④⑥⑦）。

各サイトで集めたデータは、重複するものを除いて一覧としてまとめ、そのモーラ数をカウントした。その結

表10 「まとめデータ」の基本的数値

総語彙・フレーズ数	110
最短モーラ長	5
最長モーラ長	24
平均モーラ長	11.0モーラ
モーラ長最頻値	14モーラ

果、平均モーラ長は約11モーラとなった。また、モーラ長の最頻値が14モーラとなって平均モーラ長と大きく異なっているが、これは七五調の破調である八六調の14モーラの語彙・フレーズと、七七調の14モーラの語彙・フレーズが重なった数字のためと考えられる。

一方、七五調のことばのまとめとして見つかったのが、「ニコニコ大百科」の七五調のことばのまとめページである（データ引用元、参考サイト⑤のみ）。ここからも語彙・フレーズを抽出した（以下「ニコ百データ」と表記）。ただし、このデータは音数律がほぼ七五調およびその破調のものに限られており、単純に表10のデータと比較することはできない。次の表11は、このニコ百データのデータをまとめたものである。

こちらは抽出したデータのうち、七五調およびその破調となる語彙・フレーズのみを抽出し137フレーズを得た。この結果、モーラ長は七五調の12モーラから八六調の14モーラまでの3種類に限られ、平均モーラ長も12.2モーラとなった。

表11 「ニコ百データ」の基本的数値

総語彙・フレーズ数	136
モーラ長	12、13、14のみ
平均モーラ長数	12.6モーラ

3.2. まとめデータ

まずまとめデータの語彙・フレーズの音数律についてである。

全データのうち、七五調およびその破調（表12、**ゴシック**で表記しした8-6、7-5、8-5、7-6の4パターン）の語彙・フレーズで、22.7%（110語中25語）、七七調および五七調に関わるもの（表12、下線で表記しした7-7、8-8、5-7、5-8の4パターン）が10.9%（110語中25語）となった。七五調が多いことはデータの収集段階からわかっていたが、五七調が計2つと少ないことは以外であった。

表12 まとめデータの音数律の出現頻度

頻度	音数律
9	8-6
8	4-4
6	7-5 、 <u>7-7</u> 、 8-5
5	2-3
4	3-3、4-3、6-6、 7-6 、 <u>8-8</u>
3	5-4、6-3、6-7、8-7、4-4-3
2	3-4、3-6、4-5、5-3、5-6、6-4、2-2-2
1	2-4、3-2、4-6、4-7、5-5、 <u>5-7</u> 、 <u>5-8</u> 、6-2、6-5、6-8、7-4、 3-3-3、3-3-4、3-3-5、3-5-5、4-6-6、6-6-2、8-8-7、3-3-3-3、3-3-4-4、5-4-7-8

次に、これらの集めた語彙・フレーズののべ音節数および、モーラ音節数の違いによってまとめたのが、表13である。

これが多いのか少ないのかは、今回の研究では比較対象を準備できなかったために比べることはできないが、少なくとも少数に収まって

表13 まとめデータのモーラ音節の分布

1モーラ音節	66.7%（564音節/845音節中）
2モーラ音節	32.9%（278音節/845音節中）
3モーラ音節	0.12%（1音節/845音節中）

いるようには見えない。ただしこれを証明するために今後の課題として、一般的な語彙やフレーズの中で2モーラ音節がどれくらいの割合で出現するのかを調査する必要があるだろう。

3.3. ニコ百データ

次にニコ百データについてもその音数律による分布をまとめたのが、次の表14である。

表14 ニコ百データの音数律の出現頻度

音数律	頻度
7-5	60
7-6	17
8-5	50
8-6	12

この表からわかるのは、前半の7モーラの部分が8モーラとなる字余りは60:50、また17:12と差は少ないが、後半の5モーラの部分が6モーラとなる字余りは、60:17、また50:12と明らかに出現頻度が下がる。つまり、前半7モーラが8モーラになる字余りは許容されやすいが、後半5モーラが6モーラになる字余りは許容されにくいのではないだろうか。

そこで出現頻度の少ない、後半で字余りとなる語彙・キーワードを調べてみると、2モーラ音節で終わっているものがほとんど(29個中25個)であった。

表15 七六調での最後の音節のモーラ数

最後が2モーラ音節 (計25個)	(26) いくつになっても甘えん坊 (27) 桃栗三年柿八年 (28) 機動警察パトレイバー (29) 寄ってらっしゃい見てらっしゃい
最後が1モーラ音節 (全4個)	(30) そんな装備で大丈夫か？ (31) 持たず作らず持ち込ませず (32) とある魔術の禁書目録 (33) 為替と株の値動きです

これは、(30)(31)のように最後の字余りの部分に1モーラ音節が来ると、リズム感が悪くなるためと考えられる。同じ傾向はまとめデータでも見てとることができ、後半部分が6モーラとなる字余りの語彙・フレーズのうち、最後が2モーラ音節のものが13個中11個とやはり圧倒的多数であった。

また、上記表15の(32)と(33)については、最後の「ス」の母音が無声化しやすく、この場合に前のモーラに後接してCVCの閉音節を構成する可能性がある。この場合には、これらも2モーラ音節と取ることができるが、母音の無声化した時に、前のモーラと接続して閉音節を構成するのは、今後議論が必要になると考えられる。

次の表16は、ニコ百データについてのモーラ音節の分布である。表の13と比較してわかるとおり、ニコ百データの方が1モーラ音素の割合が高く、2モーラ音素が少なくなっている。

表16 ニコ百データのモーラ音節の分布

1モーラ音節	74.9% (1032音節/1378音節中)
2モーラ音節	24.9% (343音節/1378音節中)
3モーラ音節	0.07% (1音節/1378音節中)

これについても今後の、通常の語彙・フレーズでの2モーラ音節の出現頻度と比較することが必要となる。

3.4. 押韻

今回の中で、いわゆる韻を踏んでいると考えられるものが、全データ246語彙・フレーズのうち15例見つかった（末尾の韻である脚韻に限定）。次の(34)～(36)は、その中でも韻を踏んでいる部分が1モーラ音節からなる全3つである。

(34) 驚き、桃の木、山椒の木

(35) ありおり、はべり、いまそかり

(36) マルクス、アウレリウス、アントニウス

今回見つかった15例で、上記以外の12語彙・フレーズはすべて2モーラ音節を用いた韻を踏んでいた。また2モーラ音節が用いられた12例の中で、撥音を用いた脚韻が8例見つかっている。その中の3つを例として次にあげる。

(37) 支点、力点、作用点

(38) アラビン、ドビン、ハゲチャビン

(39) セブン、イレブン、良い気分

15例の中で12例が2モーラ音節、またその中でも8例が撥音を伴うことは、割合としては大きく感じる。しかしながら、サンプルの数も少ないことから、押韻が語彙・フレーズの印象に影響を与えているか、今後検討が必要であろう。

3.5. データの分析結果

まとめデータ、およびニコ百データをあわせて、計246語彙・フレーズのデータを集めて分析してみたが、まず2モーラ音節が非常に多いことがわかった。これは日本語の律文や印象の強い語彙・フレーズと、2拍子、4拍子のリズムが相性が良いことを理由とすると証明できたと考えている。また、七五調において後半の5モーラを6モーラにする字余りが通常は許容されにくい一方で、ここが2モーラ音節の場合にはその限りでないこともわかった。

4. おわりに

今回の研究では、印象の強い語彙・フレーズのモーラと音節の特徴について、特に2モーラ音節の存在に着目して考察および調査を行った。この結果、日本語の4拍リズムに2モーラ音素が適合することにより、印象がより強くなっている可能性があることを確認することができた。

その一方で、今回比較対象として準備できなかった通常の語彙・フレーズでの2モーラ音節の出現頻度の測定を行い、今回のデータと比較することが必要である。また、他の律文を含めて5モーラから6モーラへの字余りの場合の2モーラ音節の出現頻度、および母音の無声化に伴う閉鎖音の生成の可能性について、今後の研究が必要と考えられる。

参考文献

猪塚元、猪塚恵美子 1993『日本語の音声入門』バベルプレス

上原総、熊代文子 2007『音韻・形態のメカニズム』研究社

金田一春彦、林大、柴田武編 1988『日本語百科大事典』大修館書店

窪園晴夫 1992「日本語のモーラ：その役割と特性」『日本語のモーラと音節構造に関する総合的研究(1)』（文部省科学研究費重点領域研究「日本語音声」E10 班研究成果報告書）

- 窪園晴夫 1995『語形成と音韻構造』くろしお出版
 窪園晴夫、太田聡 1998『音韻構造とアクセント』研究社
 窪園晴夫 1999『日本語の音声』岩波書店
 窪園晴夫 2002『音節とモーラ』研究社
 小泉保 2003『改訂音声学入門』大学書林
 国語学会編 1980『国語学大事典』東京堂出版
 Dauer, R. M. 1983 Stress-timing and syllable-timing reanalyzed. *Journal of Phonetics* 11.
 藤川直也 2013「日本語東京方言におけるモーラ・音節・フット」『ありあけ：熊本大学言語学論集』(12), 79-112, 熊本大学文学部言語学研究室

参考サイト

- ① あたそく「壘田永年私財法より語感がいい言葉wwwwwwwwwwwwwwwwww」
<http://atasoku.net/2016/04/30/post-21375/> (2017/04/25確認)
- ② Aちゃんねる「リズム感で耳に残る単語」
<http://guppy.a-ch.net/test/read.cgi/life/1462050338/> (2017/04/25確認)
- ③ Twitter 「壘田永年私財法」による検査結果
<https://twitter.com/search?q=%23%20%E3%83%9C%E3%83%A7%20%E3%83%9C%E3%83%A7%20%E3%83%9C%E3%83%A7%20%E3%83%9C%E3%83%A7&src=typd> (2017/04/25確認)
- ④ にお速報「壘田永年私財法より語感のいい言葉見つけたったwwww」
<http://blog.livedoor.jp/niiisokuhou/archives/36447730.html> (2017/04/25確認)
- ⑤ ニコニコ大百科「七五調のことばの一覧」
<http://dic.nicovideo.jp/a/%E4%B8%83%E4%BA%94%E8%AA%BF%E3%81%AE%E8%A8%80%E8%91%89%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7> (2017/04/25 確認)
- ⑥ 腹筋崩壊ニュース「壘田永年私財法より語感のいい歴史用語あんのwwwwwwwwwwwwwwww」
<http://fknews-2ch.net/archives/23685045.html> (2017/04/25確認)
- ⑦ マイナビ 学生の窓口「壘田永年私財法」は殿堂入り？ 声に出して読みたくなる日本の歴史用語 4 選！
<https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/39971> (2017/04/25確認)

収集データ例 (抜粋)

まとめデータ	ニコ百データ
ア—ロニ—ロアルルエリ	100人乗っても大丈夫
アイネクライネナハトムジク	101回目のプロポーズ
アウトストラ—ダデルソーレ	ABCD 包囲網
アデノシン三リン酸	Dr.スランプアラレちゃん
アブ—アルア—ッパース	FUNKY MONKEY BABYS
ありおりはべりいまそかり	NO MUSIC, NO LIFE.
アルビノアフリカツメガエル	YAT 安心!宇宙旅行
エイライルマタルユーティライネン	アゼルバイジャン共和国
オスマンサンコン	アラビンドピンハゲチャピン
キスショットアセロラオリオンハートアンダーブレード	いくつになっても甘えん坊
グリムジョー—ジャガー—ジャック	エッチスケッチワンタッチ
ゲルトルートバルクホルン	おおかみこどもの雨と雪
こまごめビベット	おせちもいけどカレーもね!
コロラド大学ボルダー校	オンリー—ロンリー—グローリー
サインコサインタンジェント	お口チュクチュモンダミン
サグラダファミリア	ギザギザハートの子守唄
システムストアプロシー—ジャ	きゅうりのキュウちゃん丸かじり
ジャバウォック	こまけえこたぁいいんだよ!!
スカシカシバン	これが私の生きる道
スクラピュラスエミッサリー	これはだめかもわからんね
...	...

- i 日本語のモーラを音節と表記する書籍もあった。
- ii 「ロンドンッ子」「ウイーンッ子」のようなパターンで、VCC、CVCC の構成を持つものも例外的には見つかっているが、本論では扱わない。
- iii 俳句の五・七・五において 2 番目の七を構成する部分。中句とも。
- iv 筆者の場合は、メソポタミア文明に関連する王朝名を暗記するために、「もしもしカメよ」の曲で、「シュメール、アッカド、バビロニア。ヒッタイト、カッシート、ミ(ー)タンニ。ヘブライ、フェニキア、アッシリア。リディア、メディア、アケメネス」と歌って覚えていた。このうち () はモーラ数を合わせるために、補われた促音および長音。